

No. 7 わたらせ養護園における和太鼓の取り組み

社会福祉法人桐の実会 わたらせ養護園 柏原 彩加

1 はじめに

わたらせ養護園は、桐生市新里町にある福祉型障害児入所施設で 3 歳～15 歳までの児童 40 名が生活している。児童はみどり市にある渡良瀬特別支援学校に通学しているが、週末や長期休みの余暇時間には園内で和太鼓活動を行っている。初代施設長の「子ども達の心に響く教材を」という考えから、和太鼓の取り組みが昭和 61 年に始まり、今年で 39 年を迎える。「わたらせ太鼓」というオリジナルの曲を中心に演奏を続けてきたが、平成 2 年に発表した「わたらせ太鼓パート 2」を昨年、約 30 年ぶりに発表することができた。また、感染対策が変わったことによりコロナで中止になっていたイベントが再開され、昨年には 4 年ぶりに群馬県青少年会館様主催の「ゆうあい・ふれあい交流フェスタ」に出演。そこでの演奏を評価していただき「令和 6 年新年交歓会」の出演依頼を受けて、堂々と演奏を行った。6 年ぶりとなる「あすなろ祭」にも和太鼓発表で出演した。伝統を受け継ぎ、年々力を増している太鼓グループの取り組みを A さんの事例を通して発表したい。

2 太鼓グループとは

和太鼓が好きで、集中して練習に参加できる児童と担当職員で構成されている。月に 2 回練習の日を設けて、その成果を園内行事や外部で発表している。太鼓グループ以外の児童も、月に 1 回和太鼓を楽しむ日を設けている。一定のリズムで構成されている曲や名前の数打ち、337 拍子の練習を行い、和太鼓の魅力を伝えている。時には、歌に合わせて打つだけで演奏ができる曲を職員が作ることもある。歴史ある曲を受け継ぐだけでなく、現代に合わせた変化も取り入れて、より多くの児童に和太鼓の楽しさを伝えている。園内行事の発表を見て「太鼓グループはカッコいい」というイメージを抱いている児童が多い。太鼓グループに入る為に、日々の生活に活気が出る子。グループメンバーとなり他児童の憧れとなることで、自立してリーダーシップを発揮する子。その姿に感化されて支援に力が入る職員。わたらせ養護園全体のパワーとなっている活動が太鼓グループである。



▲練習風景



▲瞑想

(1) 目標

- ・和太鼓の音、リズムを楽しみながら技術の向上を目指す。
- ・和太鼓演奏を通して表現する喜びや集中力、仲間意識を養う。
- ・活動の成果を発表することで自信を養う。

(2) 太鼓グループメンバー（令和7年度）

児童 6 人（中学生 3 人・小学生 2 人・幼児 1 人）担当職員 4 名

(3) 活動日

月 2 回、担当職員の出勤日に行う。発表が近づくと週 1 回のペースで行っている。

(4) 活動内容

- ①太鼓、バチの準備 ②練習内容、今後の発表予定の確認 ③瞑想
④曲練習（わたらせ太鼓、ゆうあい、わたらせ太鼓パート 2）⑤職員からの助言
⑥挨拶 ⑦太鼓の片付け

(5) 太鼓の編成

和太鼓の種類	配置人数	太鼓の特徴
【1】桶胴太鼓	児童 5 人	軽く打っても音が出る。演奏しやすい。
【2】大締め太鼓	児童 1 人	桶太鼓と同じ特徴である。
【3】長胴太鼓	職員 2 人	大きな低音で全体を盛り上げる。
【4】締め太鼓	職員 2 人	高音でリズムの流れを作る。



種類▶ 桶胴太鼓

楽譜▶ 樽パート



大締め太鼓

樽パート



長胴太鼓

長胴パート



締め太鼓

締めパート

以前、樽パートは酒樽を使用していた。

長年の使用で傷んでしまった為、現在は桶胴・大締め太鼓を使用している。

(6) 瞑想

「はじめ」の合図で目を閉じる。そのままゆっくりと呼吸をする。「終わり」の合図で目を開ける。瞑想が終わると児童は真剣な表情に変わる。日常生活でも気持ちが高ぶっている時には瞑想を行い、落ち着く習慣が身に付いている。

(7) 活動の記録

演奏技術だけでなく、準備や片付け、集中力、協調性など児童の様子を短時間で分かりやすく記録できるように「◎優」「○可」「△支援が必要」の三段階で評価している。備考には練習全体を通しての児童の様子も記録して次回の練習内容の参考にしている。この記録法により演奏の技術だけでなく、生活面や情緒の変化に繋がる気づきも得ることができる。

わたらせ太鼓

作曲：友石武彦

ささら・木打
横
氏網太鼓
締の太鼓

① ③ ささら・木打 休み
② ④ 横 休み

▲ わたらせ太鼓の楽譜

和太鼓G活動記録					氏名
日にち		4 / 20	5 / 18	6 / 22	7 / 20
準備	瞑想	◎	◎	○	○
	挨拶	○	◎	◎	◎
	太鼓用意	◎	◎	◎	◎
曲	わたらせ太鼓	◎	◎	○	○
	ゆうあい	○	○	○	○
片付け	わたらせ太鼓2	○	△	△	△
	職員の話聞く	○	◎	○	△
	挨拶	◎	◎	△	◎
評価	片付け	○	○	○	○
	集中力	○	○	△	△
	忍耐力	○	○	○	○
	協調性	○	○	○	◎
	楽しむ	◎	◎	◎	◎
	技術	○	○	○	○
	自信	○	○	○	○
全体評価	備考	最初のうちは、緊張感があり、集中力が続かなかった。しかし、練習を重ねるにつれて、徐々に集中力が向上し、演奏の楽しさを感じてきた。特に、リズムの揃った演奏が、児童の心を落ち着かせ、集中力を高める効果があった。今後も、このような練習を継続し、児童の成長を期待する。			
	記録者名	山本	山本	山本	山本

記録方法：◎優 ○可 △難・支援必要

▲ 活動の記録

3 事例

A さん【性別】女性 【年齢】15 歳 【障害程度】知的障害軽度（療育手帳 B2）

◎入所後から令和 6 年度までの様子

平成 28 年(6 歳)入所。年齢を重ねるにつれて事故が増加。令和 4 年度、中学生になると他害、破壊行動、異物を飲み込むなど危険な行動が増加。そのため、令和 5 年度から普段の生活で落ち着ける場面が増えるように、毎回夕食後に瞑想を 1 分実施した。10 月からは A さんの希望で、太鼓グループに本格的に参加。太鼓グループを通して A さんが成長することを期待し、令和 6 年度も活動を継続した。

4 和太鼓活動・日常の様子

	太鼓活動の内容	日常の様子
令和4年度	・和太鼓演奏を見ている時に膝を叩いて 337 拍子のリズムを取っていた。太鼓への興味がある様子。 ・楽しみながら太鼓活動に取り組む。(年 2 回)	落ち着きがない。他児を噛む、蹴る等の他害。ガラスを割る、衣類を破く破壊行動。陰部を露出、他児の服を脱がせる等の性的行動もみられる。職員は常に本児の行動に目を配らせる必要があった。
令和5年度	・楽しみながら和太鼓に取り組む。(7 月 1 回) ・<u>10 月 太鼓グループに入る</u> 月に 2 回の練習を行う。入所当時から聴いていたこともあり、曲は覚えているが、他児とリズムを合わせることは難しい。 ・<u>12 月 もちつきまつりで演奏</u> 行事前、週 1 回のペースで練習。以前はふざけて参加できないこともあったが、発表に向けた練習は真剣に参加できた。当日は保護者も含めた大勢の人に見てもらうことができた。	4 月から、毎回の夕食後 1 分の瞑想を実施。普段の生活で落ち着ける場面が増えたことで、園での事故が軽減。 10 月からは、A さんの希望と、人との関わり方や物の大切さを学んでほしいという支援者の願いから、太鼓活動に積極的に参加。さらに落ち着きを増し、事故は他害 1 件のみとなる。
令和6年度	・<u>太鼓グループに参加継続</u> 月 2 回の練習。発表前は週 1 回のペースで練習。常に前にいる児童を見ながら練習をしていた為、A さんが苦手なところは演奏しやすいようリズムを調節した。それからはリズムが合うようになり、自信を持って前を向いて演奏できるようになった。45～60 分の長い練習時間も集中できることが増えた。準備や片付けなども積極的行えた。	園生活、学校生活共に落ち着いていることが増え、他児とのトラブルも減少。保護者との外出、外泊でも気持ちが高ぶることは減り落ち着いて過ごせていた。小さい児童のお世話や職員の手伝いを積極的行えた。自分の気持ちを素直に言えることが増えた。
	令和 6 年度演奏した行事 園内行事： 8 月 親子納涼祭 12 月 もちつきまつり 園外行事：11 月 ふれあい・ゆうあい交流フェスタ（群馬県青少年会館） 1 月 令和 6 年新年交歓会（群馬県青少年会館） 3 月 あすなる祭（ベイシア文化ホール） *（ ）は会場	

発表の様子

▼園内行事

「納涼祭」「もちつきまつり」保護者やボランティアの方に発表を見ていただく。



▼園外行事

「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」「令和6年新年交歓会」演奏後に公園ランチ。



▼あすなろ祭

6年ぶりの出演。3曲の発表を行い、奨励賞を受賞。



事故報告の集計

年度	事故内容(園内)	事故件数	
		園	学校
4年度	弄便② 他害⑨ 破壊行動⑧ 異物を飲む① 性③	23件	6件
5年度 4~9月 瞑想開始	弄便② 他害③ 破壊行動① 異物を飲む①	7件	8件
10~3月 太鼓開始	他害①	1件	3件
6年度	弄便① 性① 他害①	3件	2件

学校での様子

令和 5 年度は学校の授業に参加できない事もあったが、令和 6 年度は落ち着いて登校できていた。学校での事故は、他害や破壊行動など令和 5 年度 4～9 月で 8 件あったが、10 月から和太鼓を始めて 3 件に減少、令和 6 年度は 2 件にまで減少した。

渡良瀬特別支援学校 連絡ノートより

令和 4 年度は、笑顔も多くのびのびと学校生活を送っていた。令和 5 年度は環境の変化に戸惑い、執着する相手が離れていくことを極度に心配し、不安な気持ちを誤った行動で示してしまうことが多くなった。物投げ、本や教材を破る、異食、自傷等の気引き行動が目立った。しかし、令和 5 年度後半から行動が落ち着き出し、自分の気持ちを他者に伝える、表出することが増えてきた。令和 6 年度に入ると教員にこだわりや執着を見せることは減り「誤った行動」をしないように「～しないよ」「大丈夫」と周囲の大人に伝えることができるようになった。中学を卒業するまでには「中学生で一番大きいお姉さん」ということを自覚し他者の世話をする姿も多く見られた。

5 考察

- ・令和 6 年度は園、学校共に事故が軽減した。和太鼓に打ち込み、大勢の人の前で表現し、それを評価されることで自信にも繋がり心が満たされているからではないか。
- ・環境が変わると行動障害が出る児童がいるが、園生活だけでなく、学校の連絡ノートにあるように学校でも落ち着いて行動できるようになった。
- ・令和 6 年度、園内の事故で弄便や女児同士で裸を見せあう等の行為は見られているが、他害は 1 件のみに減少している。
- ・令和 6 年度の太鼓活動では自信を持ち、集中できる時間が増え、自分で考えて行動できる場面も見られた。令和 5 年度の様子と比べると成長を感じる。和太鼓活動での取り組みが日常生活でも活かされた結果、事故の軽減に繋がったのではないか。忍耐力、自分で考える力、他人を意識する力は生きていく上で重要なスキルである。
- ・私自身も他害等の注意引きを受け、A さんとの関りに苦手意識があったが、和太鼓の練習中には自然と褒める関りが増えたことで関係が深まり、今では良好な関係が築けている。
- ・月に 1 回の帰省では気持ちが高ぶり、食事も喉を通らなかった。和太鼓の発表を保護者に見てもらい「上手だったよ」と褒めてもらう事が増えた。保護者との関係も安定し、帰省中も落ち着いて過ごせるようになった。和太鼓が親子関係にも良い影響を与えている。
- ・事故が減った代わりに、お手伝いなどで職員からほめられる回数が増えた。

6 職員の連携

太鼓グループの担当職員は定期的に入れ替わる。和太鼓を演奏する時間は、年齢も性別も勤続年数も関係なく、仲間となる貴重な時間である。良い演奏をしたいという気持ちは、平等であり尊重している。同じ目的に向かうことで結束力が高まり、その力は日常の業務にも活かしている。

7 伝統を守る

世の中はめまぐるしいスピードで変化しているが、わたらせ養護園の和太鼓は 39 年間受け継がれ、施設の個性、特色となっている。変わる事のない伝統を受け継ぎ、どの時代でも人々の心を引きつけ元気と笑顔を与えてくれる思いのこもった曲を大切にしていきたい。

8 あすなろ祭出場について

あすなろ祭は、昭和 61 年から続く歴史あるイベントである。わたらせ養護園は初年度から出演し、和太鼓での出演は 23 回と最多である。ステージに上がり、スポットライトを浴びて他では感じる事の出来ない緊張感の中、演奏することは児童達の人生においてキラキラと輝く経験となり、自信になっている。実際に、卒園生からは和太鼓への思いが綴られた手紙が届いている。そして、その輝かしい児童達の後ろ姿に私たち職員は胸を打たれ、バチを持つ手に一段と力が増す。この気持ちは保護者や観客の方々にも伝染し、大きな拍手として表れている。人生の土台を築く貴重な経験の場になっていると思うと、あすなろ祭を主催していただいている群馬県知的障害者福祉協会様を始め、関係者や参加者の皆様には感謝申し上げたい。受け継いできた「わたらせ太鼓」をたくさんの方々に聴いていただけること、大きな舞台で披露できることに感謝し、力いっぱい演奏し続けていきたい。

太鼓出演 №	年	第○回	出演内容
	1986 (昭和 61 年)	1	新編 おおきな株
1	1987 (昭和 62 年)	2	わたらせ太鼓
	1988 (昭和 63 年)	3	フラッグダンス ティズニー・モデル
2	1989 (平成元年)	4	わたらせ太鼓
3	1990 (平成 2 年)	5	わたらせ太鼓、わたらせ太鼓 2
4	1991 (平成 3 年)	6	わたらせ太鼓 他
	1992 (平成 4 年)	7	調 アンパンマンと 7 ひきのこやぎ
5	1993 (平成 5 年)	8	わたらせ太鼓、わたらせ太鼓 2
	1994 (平成 6 年)	9	ミュージカル はたかの王様と後の仲間たち
6	1995 (平成 7 年)	10	わたらせ太鼓 森に太鼓が響くとき (演劇)
	1996 (平成 8 年)	11	ダンス劇 不思議の国のアリス
7	1997 (平成 9 年)	12	わたらせ太鼓
	1998 (平成 10 年)	13	からっ風 他
8	1999 (平成 11 年)	14	からっ風
	2000 (平成 12 年)	15	合唱 さんぽ 他 2 曲
	2001 (平成 13 年)	16	合唱 うたえよパンパン 他 2 曲
9	2002 (平成 14 年)	17	わたらせ太鼓、からっ風、ゆうあい
10	2003 (平成 15 年)	18	わたらせ太鼓、からっ風、ゆうあい
11	2004 (平成 16 年)	19	わたらせ太鼓、からっ風
12	2005 (平成 17 年)	20	わたらせ太鼓、からっ風
13	2006 (平成 18 年)	21	わたらせ太鼓、からっ風
14	2007 (平成 19 年)	22	わたらせ太鼓、からっ風
15	2008 (平成 20 年)	23	わたらせ太鼓、からっ風、上州
	2009 (平成 21 年)	24	合唱 わたらせ養護園園歌 他 2 曲
16	2010 (平成 22 年)	25	わたらせ太鼓、からっ風
17	2011 (平成 23 年)	26	わたらせ太鼓、からっ風、上州
18	2012 (平成 24 年)	27	からっ風、上州
	2013 (平成 25 年)	28	歌とダンス 勇気 100% 他 2 曲
	2014 (平成 26 年)		大雪で中止
	2015 (平成 27 年)	29	歌とダンス 涙をぐださい 他 2 曲
19	2016 (平成 28 年)	30	わたらせ太鼓、上州・ゆうあい
20	2017 (平成 29 年)	31	わたらせ太鼓、からっ風、ゆうあい
21	2018 (平成 30 年)	32	わたらせ太鼓、からっ風
22	2019 (平成 31 年)	33	わたらせ太鼓、ゆうあい
	2020 (令和 2 年)		中止 (コロナ)
	2021 (令和 3 年)		中止 (コロナ)
	2022 (令和 4 年)	34	WEB 出演なし
	2023 (令和 5 年)	35	WEB 出演なし
	2024 (令和 6 年)	36	WEB 出演なし
23	2025 (令和 7 年)	37	わたらせ太鼓、ゆうあい、わたらせ太鼓 2

▲あすなろ祭出演年表 (調査協力：群馬県知的障害者福祉協会 柴崎様)

あけましておめでとう
 ごさいます2025ねんかは
 いいときになまように
 ぜんぜんだいこ
 おしえてくれました。
 こからもういいときになまといいてお
 ももあからくやさしい
 おもなになりました。

わたらせ太鼓の
 みんなへ
 たにかたのしかた
 ては
 またたいては
 あけましておめでとう
 こせりは

太鼓支グループのみんなへ
 まず初めに3月8日にあった
 『あすなろ祭』お疲れ様
 でした。
 みんなが太鼓を叩いてる姿を
 見てたら笑い声もでたし。
 みんなそろっていてとてもかこ
 かったです。感謝しました。
 これからの太鼓支グループのみんなしゅう
 がんはてください。
 おうんしています。

▲卒園生から届いた 2025 年の年賀状や手紙には太鼓の思いが綴られている。

9 まとめ

私は、太鼓グループに参加して 8 年目になる。児童との関係作り、職員との連携等で悩み苦しむ時期もあった。それでも和太鼓を演奏している時は気持ちが高ぶり、音がそろった時の心地よさは何物にも代えがたいものである。難しいパートは児童と繰り返し練習し、上手に演奏できた時は共に喜び、自然と信頼関係が生まれた。職員とは演奏の技術向上について語り合い、共に音を合わせる事で連帯感が生まれた。

当園は、今年の 11 月 1 日で創立 59 年、来年には 60 周年を迎える。当園の歴史と共に、わたらせ太鼓も歴史を刻んでいる。児童も職員も入れ替わっているが、同じリズムを今日も受け継いでいる事を誇らしく思う。

わたらせ養護園の児童は、入所経緯、性格、障害特徴、家庭環境等、1 人 1 人異なる。一見生活と関わりが無いように感じる和太鼓だが、児童のできる事を増やし、保護者との関係を繋いでくれていることを実感している。和太鼓の響き、リズムは障害の程度に関係なく、児童の心を揺さぶり動かす力を持っている。そして、その音は支援者や保護者、関係者の方々にも伝わり、心を繋いでいる。「わたらせ太鼓」「わたらせ太鼓パート 2」は、世界に 1 つだけの曲。伝統の象徴であり私たちの応援歌である。初代施設長の「子ども達の心に響く教材を」という考えで始まった和太鼓活動は、今まで多くの児童の成長を後押ししてくれている。それだけでなく、職員や保護者の気持ちも前向きに変えてくれる。わたらせ養護園にしかできない自慢の支援方法を、胸を張って皆様にお伝えできていることがとても嬉しい。これから先も児童が輝ける和太鼓活動を受け継ぎ、伝統を守り続けていきたい。

10 参考文献

「わたらせ太鼓 10 年のあゆみ」 (1996) わたらせ養護園編集・発行